

## 令和2年度 前期 ビジネス・キャリア検定試験

## ロジスティクス分野

## 3級 ロジスティクス管理

## 試験問題

(12ページ)

1. 試験時間 110分
2. 注意事項
  - (1) 試験問題は、係員の指示があるまで開かないください。
  - (2) 試験問題は、40題あります。
  - (3) 試験問題の配点及び合格基準は、次のとおりです。  
(配点) 問題1～問題40 各2.5点 合計100点  
(合格基準) 試験全体として概ね60%以上の正答。
  - (4) 関係法令、会計基準、JIS等の各種規格等に基づく出題については、問題文中に断りがある場合を除き、令和2年5月1日時点で施行されている内容に基づくものとします。
  - (5) マークシート(解答用紙)には、①試験区分名、②氏名、③座席番号、④受験番号、⑤生年月日を正確に記入してください。  
なお、受験番号の最後の桁は、アルファベットですので、数字と間違えないように注意してください。
  - (6) マークシートにマークする際には、HB又はBの黒鉛筆又はシャープペンシルのいずれかで、はっきりとマークしてください。それ以外は使用しないでください。  
なお、訂正する場合は、採点の際にマークシートの誤読の原因となることがありますので、きれいに消してください。
  - (7) マークシートには、所定の事項以外は絶対に書き込まないください。  
なお、計算等が必要な場合は、問題用紙の余白又は裏面を使用してください。
  - (8) マークシートにはア～エまでマークする欄があります。問題番号及び問題文に従って正解と思われるものを1つだけ選んで間違えないようにマークしてください。
  - (9) 試験問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
  - (10) 試験中にトイレへ行きたくなった場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。
  - (11) 試験終了時刻前に解答が済み、退出する場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始後30分間及び終了前10分間は、退出できません。  
なお、退出する場合は、周りの受験者に配慮して、静かに退出してください。
  - (12) 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。
  - (13) 試験終了後、マークシートを必ず提出してください。ただし、試験問題は、持ち帰ることができます。  
なお、マークシートが提出されていない場合は、失格となります。
  - (14) 試験問題の転載、複製などを固く禁じます。

問題文中、次の法令名は略称で記載されています。

- ・ 下請代金支払遅延等防止法 → 下請法
- ・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 → 廃棄物処理法

問題 1 物流の領域とその特徴に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 調達物流は、日本の商慣行では届けるまでが仕入れ先の業務であるため、自社ロジスティクス部門の管轄外としている企業が多い。
- イ. 社内物流は、社内拠点に補充するまでの納入リードタイムをコントロールしやすいことから、効率を重視して構築される。
- ウ. 販売物流は、顧客への納品を担うことから、自社で設計した物流システムが提供可能な物流サービスに基づいて取引条件を決めるという手順をとる。
- エ. 返品物流は、生産や取引条件などの物流以外の要因でも発生することから、それぞれの要因の解消にも取り組むことが肝要である。

問題 2 物流管理に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流管理とは、物流において P（計画）、D（実行）、C（チェック）、A（アクション、改善）のサイクルを回すことである。
- イ. 物流管理における在庫管理は、在庫現品管理と、欠品や過剰在庫を管理する在庫コントロールから成り立っている。
- ウ. 物流生産性の管理では、倉庫内作業や輸配送などにおいて、数値で実態を把握して、目標を設定することが必要とされている。
- エ. 物流管理における物流システム管理とは、倉庫管理システム、輸配送管理システム等の ICT による管理体制のことを指す。

問題 3 製造業における物流に関わる部門・組織に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 原材料の仕入れに伴う物流は、生産量に応じて発生するため、生産部門が輸送手配等のイニシアチブを取る。
- イ. サプライチェーンを効率的に管理していくためには、物流部門と IT 部門とが共同で情報システム構築を行う。
- ウ. キャンペーン、特売等による一時的な在庫増加においては、マーケティング・営業部門と物流部門とが情報の連携を行い、マーケティング・営業部門が生産依頼を行う。
- エ. 物流拠点の立地は、顧客への納入リードタイムやサービス水準を左右するため、営業部門が決定する。

問題4 荷主や運送業におけるドライバーの人材確保策に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 民間の有料求人サイトにハローワークで募集している求人情報と同じものを掲載し、募集の窓口を拡げた。
- イ. 初心者の応募を増やすため、免許取得支援制度を設けることとし、希望する新入社員に免許取得費用として、一定額の金銭の貸付けを行った。
- ウ. 未経験者であっても幅広く採用することとし、内定から入社までの間に公的機関が実施している初任者向けの運転者適性診断を受けてもらい、適性がある人材を採用することとした。
- エ. 女性ドライバーの採用を増やすため、荷主との協議により運転業務に付随する手荷役を減らしてもらい、その業務に女性を優先的に従事してもらったこととした。

問題5 物流サービスに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流サービスで求められるのは、物流の迅速性と正確性の2点である。
- イ. 物流サービスは、一般的に質の高いサービスを提供しようとするコスト高となるので、コスト削減を最優先に物流サービスを提供する必要がある。
- ウ. 物流サービスを管理するためには、どの顧客にどのようなサービスを行っているのか実態を把握することが必要である。
- エ. 物流サービス水準を上げると常に売上・利益ともに増加する。

問題6 物流サービスの基本概念に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. トラック運送事業者における物流サービスとは、トラックドライバーがトラックを利用して行うサービスであるため、事故防止などの安全教育を徹底して実施する。
- イ. 倉庫業における物流サービスとは、保管されている製品が寄託時の状態を維持するサービスであるため、庫内の4S（整理、整頓、清掃、清潔）を徹底して実施している。
- ウ. 卸売業における物流サービスとは、生産者・メーカーから仕入れた商品を小分けして間違いなく顧客へ届けることであるため、出荷時の検品を徹底して実施する。
- エ. 製造業における物流サービスとは、完成した製品を早く顧客に届けることであるため、常に需要予測より多めに生産することを徹底して実施する。

問題7 物流サービス管理に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流サービス条件は、納品先の現場の要請によって頻繁に変わることがあるので、納品元は臨機応変に対応することが望ましい。
- イ. 納品先に提供する物流サービス水準は、競合他社のサービス水準よりも高いことが必要である。
- ウ. 要望する物流サービスをすべて提供することは、顧客満足を高めることにつながるので望ましいことである。
- エ. 競合他社のサービス内容やレベルを調べる手段の一つに、納品先からヒアリングするという方法がある。

問題8 物流における品質管理の維持・向上の取組みに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 各作業工程において作業の標準化と作業のマニュアル化を行うことが有効である。
- イ. ベテラン作業者の経験を聞くことが最も重要である。
- ウ. 重大な物流品質トラブルの改善着手の優先度を決めるには「QC7つ道具」のパレート図（累積度数分布図）を活用することが有効である。
- エ. 重点項目を分析、抽出し各作業工程で物流品質トラブルを起こさない仕組み・仕掛けを作り込んでおくことが重要である。

問題9 メーカーA社において、品質改善のためQC手法を用いて調査を実施したところ問題点が見つかったので、改善を行うことにした。品質改善に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 入荷・格納業務で、入荷時の検品においてダメージ確認の見落としが多かったので、格納時にもダメージ確認を行い、検品体制を強化した。
- イ. 商品の移動時に落下、破損等の事故が多かったので、口頭で作業者に注意喚起を行った。
- ウ. 出庫作業中に誤った商品又は数量でピッキングしてしまうミスが多かったので、自動倉庫システムを導入した。
- エ. 出荷業務時に一部商品を間違ったトラックに引き渡してしまう誤出荷の発生が多かったので、運送会社への商品引渡し方法については、運送会社単位の一括荷渡しにした。

問題10 総合物流施策大綱（2017年度～2020年度）に示された物流施策に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. I o T、B D、A I等の活用によるサプライチェーン全体の最適化の促進
- イ. 隊列走行及び自動運転による運送の効率化
- ウ. 物流施設の大型化による庫内作業の省人化、現場作業の負担軽減
- エ. 荷物配送の省人化に向けたドローンの活用

問題11 貨物自動車運送事業者間の取引に関する記述として改正下請法の禁止事項に該当しないものは、次のうちどれか。

- ア. 下請事業者に自社の経営状況の悪化を説明し、下請代金に割引手数料分を上乗せして60日の手形で支払うことを協議合意した。
- イ. 荷主からの料金引下げ要請を理由として、下請代金を一方的に引き下げた。
- ウ. 下請事業者との取引担当者を通じて、具体的な数量を示して自社が販売する物品の購入を繰り返し要請し、購入させた。
- エ. 発注時に決定した下請代金から、下請事業者の合意を得ずにその一部を「手数料」として差し引き、残額を支払った。

問題12 事業活動に関する法令対応の記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 消防法では、危険物の運搬（タンクローリー以外の輸送）だけならば、危険物取扱者の同乗がなくても輸送できる。
- イ. 倉庫業法では、寄託を受けた物品の倉庫における保管を行う営業を倉庫業と定めている。
- ウ. 労働基準法では、時間外労働の上限を月45時間、年360時間を原則とし、月45時間を上回る回数は年6回までとなっている。
- エ. 廃棄物処理法では、廃棄物を産業廃棄物と家庭廃棄物の2つに定義している。

問題13 保管をせず、納入された商品を迅速に仕分け、配送する物流拠点の名称として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. TC（トランスファー・センター）
- イ. PC（プロセス・センター）
- ウ. SP（ストックポイント）
- エ. DP（デリバリーポイント）

問題14 ロケーション管理に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 固定ロケーション方式は、出荷頻度を考慮した商品保管が可能で、ピッキング効率の向上が図れる。
- イ. ピッキング効率を高めるために在庫をピッキング用、ストック用に分ける場合、前者を固定ロケーション方式、後者をフリーロケーション方式とする。
- ウ. 自動倉庫では、固定ロケーション方式で保管場所を管理している。
- エ. フリーロケーション方式の採用には、情報システムと情報機器類の完備が必要である。

問題15 卸売業の物流システムに関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 卸売業の物流に関する役割は、複数のメーカーから多くの商品を集め（集荷）、これらを組み合わせることで複数の小売業者に供給していくこと（分散）である。
- イ. 近年の卸売業では、生き残り策として企業合併や提携、あるいは物流共同化などによる物流機能の強化が積極的に進められている。
- ウ. 大手の卸売業では、バラピッキングを特定のセンターで集中して行い、それを各地にある通常のセンターでケースピッキングしたものと荷合わせするシステムを導入した例がある。
- エ. 卸売業は、メーカーの生産力と小売業者の販売力を同時に把握できる立場のため、双方に対して主導権を持って物流システムを構築できることが多い。

問題16 物流センターにおける業務の効率化とその手法に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 倉庫内作業の効率化には、人時生産性の分析が有効である。
- イ. 倉庫内作業の効率化には、一般に移動距離の短縮が有効である。
- ウ. 輸配送業務の効率化には、出荷頻度を分析することが有効である。
- エ. 輸配送業務の効率化には、出荷個口数、出荷単位や荷姿の分析をするのが有効である。

問題17 物流拠点設定に関する考え方として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 汎用品を中心に販売していたメーカーが、注文生産品を中心に販売する体制にシフトしたことから、物流拠点の面積を縮小することとした。
- イ. ある県でその全域における当日配送を開始した通販事業者が、その県内を同一面積のメッシュに区切り、各メッシュ内に偏りなく物流拠点を設置することとした。
- ウ. 海外生産比率を大きく拡大し、生産した商品を海上輸送で輸入することとしたメーカーが港湾近隣に新たに物流拠点を設置した。
- エ. 海外顧客への納入リードタイムが短く高額な商品を輸出しているメーカーが、空港近隣に新たに物流拠点を設置することとした。

問題18 荷主企業の物流委託先選定に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 荷主企業にとって委託先の選定で最も重視すべき点は、コストダウンに直結する運賃・料金水準である。
- イ. 委託先選考では、守秘義務契約を締結し、目的・方針、業務範囲等、詳細な情報開示・共有を行うことが望ましい。
- ウ. 委託先選定の基準として、物流事業者の現場業務遂行力よりも施設・車両・情報システム力などの規模や実績を重視すべきである。
- エ. 物流量の波動対応力も委託先選定の要素の一つであるが、3PL事業者の場合、倉庫や車両を保有するアセット型よりも、保有しないノンアセット型の方が、一般的には波動への対応が優れている。

問題19 輸送効率化策に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 鉄道、船舶は単位当たり輸送コストがトラックよりも低いため、モーダルシフトを適切なルートで活用することは輸送コスト低減に寄与する。
- イ. トラック輸送における帰りの活用法は、車両回転率の向上により、輸送コスト低減に寄与する。
- ウ. 自家用トラックから営業用トラックへシフトすることは、トラックの実働1日1車当たりの輸送トンキロの向上により、輸送コスト低減に寄与する。
- エ. 他荷主との荷物の混載は、積載率の向上によって、輸送コスト低減に寄与する。

問題20 国際輸送に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 貿易では輸出入者間で通貨が異なる場合がほとんどであるが、変動為替相場制の下では為替差損の可能性はない。
- イ. 代金決済の代表的な方法としてL/C決済、D/P決済、D/A決済、送金決済がある。
- ウ. 輸出者リスクは、前払い送金、L/C決済、D/P決済、D/A、後払い送金の順で高くなり、輸入者におけるリスクはその逆となる。
- エ. 貿易条件は「インコタームズのFOB、CFR、CIF」が広く用いられている。

問題21 在庫管理の目的とその対応において、在庫量の適正化という観点として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. コンビニA社では、常に品切れを起こさぬよう、店頭の商品をこまめに補充している。
- イ. 卸売業B社では仕入原価を下げるため、メーカーからできるだけ大きなロットで仕入を行うようにしている。
- ウ. メーカーC社では、製品の品質劣化や陳腐化、投下資金の金利負担、保管コストなど、在庫を保有することによって生じる様々なリスクを考慮して、在庫をなるべく少なくするよう生産計画を組んでいる。
- エ. インターネット書店D社では、注文への即応を考慮しつつ、品切れや過剰在庫を生じさせない在庫水準を維持するようコンピュータで在庫管理を行っている。

問題22 以下に示す<事例>を踏まえた場合、販売代理店も含めたサプライチェーン全体の在庫を減らす上で最も効果的と思われる対策は、次のうちどれか。

<事例>

住宅用建設資材メーカーC社は、製品アイテム数の増加とそれに伴う在庫量増大に悩まされている。製品は、規格化された部材の加工と組合せにより製造されるが、最終ユーザーの住宅メーカーごとに仕様が微妙に異なることもあり、在庫アイテムは数万にも上る。加えて、住宅メーカーが次々に開発する新タイプの住宅向けの製品アイテムが拡大する一方、従来品が陳腐化し、不動在庫化することも在庫量を増やす一因となっている。

C社では、部材を関連メーカーから調達して自社で最終製品に組み立て、埼玉と大阪2カ所の物流センターで在庫したのち、それぞれ東日本と西日本の販売代理店向けに納入している。

- ア. 製品の製造を東南アジアの工場に委託する。
- イ. 極力共通部材レベルまで加工し在庫しておき、受注後に最終製品へ組み立てる。
- ウ. 物流センターを埼玉1カ所に集約する。
- エ. 物流センター在庫の所有権を販売代理店に移行する。

問題23 在庫管理に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. バーコードによる管理を実施している倉庫で、海外生産品など商品バーコードが貼付されていない商品は、商品名を目視によって管理するのが効率的である。
- イ. 食品など、製造日が表示されている商品の在庫は、誤出荷を防ぐために日付ごとに分散して配置する。
- ウ. 倉庫管理システムでは、出荷指示により引き当てが行われた商品は、その時点で在庫から引き落とされるのが一般的である。
- エ. 食品など、複数商品を組み合わせるギフト商品をセット組みする流通加工では、商品コードの変換が必要である。



問題24 安全在庫に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 安全在庫は、出荷量の変動が大きいほど多く必要になる。
- イ. 安全在庫は、在庫補充リードタイムには左右されない。
- ウ. 安全係数が大きくなれば、品切れ率は小さくなる。
- エ. 安全係数は、2を適用する場合が多い。

問題25 在庫分析の手法に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 在庫が日々どのように変動しているかを明らかにするために、流動数曲線グラフを作成する。
- イ. 適正在庫量を検討するために、在庫保有日数を算出する。
- ウ. 倉庫内の商品を出荷頻度に応じたレイアウトに変更するために、品目別出荷量のABC（パレート）分析を行う。
- エ. 商品が入庫してから出庫するまでの滞留時間を調べるために、出荷頻度分析を行う。

問題26 棚卸に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 期末在庫高が実在庫よりも過大に計上されると、売上原価が増加し、利益が減少する。
- イ. アイテム数が多い商品などは、循環棚卸を行うのが一般的である。
- ウ. 一斉棚卸は、期末決算などに行うのが一般的である。
- エ. システム上の棚卸資産と現品の差異を放置しておくと、財務諸表の虚偽記載となり、遵法上でも問題である。

問題27 物流コストに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 荷主の物流コストは、管理会計により、販売費及び一般管理費の中から、物流に関する費目を抽出して算出する。
- イ. 物流コストの把握が難しいのは、工場の一部を製品保管用のスペースとして利用している等、物流業務が他の業務とリソースを共有している場合があるためである。
- ウ. 物流コストを変動費と固定費とに分けた場合、変動費の割合が高い企業の物流コストは大きく上下してしまうことになり、一般に望ましくないといえる。
- エ. 卸売業では、商物分離の進展により、製造業から小売業への直送化が広がっているため、対売上高物流コスト比率が近年大きく低下してきている。

問題28 荷主の物流コスト管理のポイントの一つは、委託単価の適切な管理である。これを踏まえ、運送委託単価（運賃料金）の管理及び見直しに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 運送委託契約は、業界の慣習に従って2～5年程度の期間を設けて締結した上で、期間中は運賃料金の変更は行わないこととした。
- イ. 契約の更改時に委託先の運送会社から運賃料金見直しの要望があったが、運送会社の届出運賃を超える金額を払う必要はないことから値上げを行わないこととした。
- ウ. 運送会社から、人件費の上昇を根拠とした値上げ要請があったため、その根拠として、荷主は運送会社の給与台帳を開示させることとし、応じない場合には契約を解除することとした。
- エ. 運送会社から運賃の値上げ要請があったが、待機時間の削減や、荷役作業の省力化等の代替案を示したところ両者が合意できたので、値上げを実施しないこととした。

問題29 トラック運賃に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 規制緩和により、原則として原価計算書の添付は不要となった。
- イ. 貸切トラックの距離制運賃は、車両に搭載したデジタル式運行記録計のデータをもとに実際の走行距離が算出され、これにkm当たりの単価を掛けて求められる。
- ウ. 荷主にとって、運賃体系の設定は輸送コストに影響を及ぼすが、一般に、定期的かつ大量の輸送は個建てとし、不定期又は少量の輸送は車建てとする傾向がある。
- エ. 輸送原価のうち、最も比率が高いのは車両の減価償却費であり、次いで軽油等の燃料・油脂費と続く。

問題30 普通倉庫料金等の委託料金に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 3期制の保管料の計算期間は、物品を保管した日数である。
- イ. 倉庫料金については、保管料、荷役料ともに地域差がほとんどないため、企業では、一般に大都市等の消費地に近い倉庫に多くの在庫を持つ。
- ウ. 荷主と倉庫業者との間では、「坪建て」「貨物1ケース当たり」といった料金体系により、倉庫寄託契約がなされている場合がある。
- エ. センターフィー方式は、物流事業者の立場から見ると、通過する商品の金額が一定であれば、収入は一定となることから、収支が安定する料金形態である。

問題31 以下の〈事例〉に基づいた場合、物流コスト算定に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

〈事例〉

加工食品を取り扱う中小卸売業であるA社は、自社の物流コストを下表のフォーマットで新たに把握することとした。

A社は、メーカーから仕入れた加工食品を自社倉庫で保管し、パート社員等がハンディターミナル及びピッキングカートを利用してピッキングしている。これを小売店舗や飲食店に対し納品するが、その手段としては、自社の営業担当者が自社所有の車両で営業活動と併せて納品するケースと、物流事業者に輸送を委託して納品するケースがある。

	支払物流費	自家物流費		
		人件費	物流施設費	減価償却費①
輸送費	②	③		
保管費		④		
荷役費				
その他				

- ア. 減価償却費①は、輸送費、保管費に対しては計上されるが、荷役費に対しては計上されない。
- イ. パート社員の給与等は、④に計上される。
- ウ. 営業担当者の人件費のうち、営業活動に費やした時間に相当する人件費は③に計上され、物流活動に費やした時間に相当する人件費は②に計上される。
- エ. 物流事業者への運賃は、②に計上される。

問題32 物流においてコスト・トレードオフの発生するものに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 小ロットや短いリードタイムでの納品は、高コストにつながるため、高度なサービスを求める顧客に対しては、売り手がサービスレベルに応じた費用を製品価格にプラスして請求することが広く一般的に行われている。
- イ. 高い物流サービスにより得られる売上げの増加と、それに係るコストを計り、利益を多く得られるようにサービスの内容を決める必要がある。
- ウ. 高付加価値の製品では、ある程度在庫リスクを許容できるため、各地に在庫拠点を置くことができるが、雑貨等の利幅の薄い製品では、在庫リスクをできるだけ少なくする必要があることから、在庫拠点数をより絞り込む傾向がある。
- エ. 段ボールやストレッチフィルムといった使い捨て型の輸送包装資材から、再利用可能な通い箱等にすべて変更することにより、環境負荷も物流コストも削減される。

問題33 物流情報システムに関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流業務プロセスの情報化では、個々の業務だけでなく、全体像の把握が欠かせない。
- イ. 問題解決のための情報化では、物流サービスの評価指標とその結果の把握が欠かせない。
- ウ. 物流は特に災害時の稼働の確保が重要であり、その情報化では、外部委託の検討も欠かせない。
- エ. 生産性向上のための情報化では、既存の人数のままで処理数量を上げるという視点が欠かせない。

問題34 基幹システムと物流情報システムとの関連に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 物流事業者の倉庫管理システムを荷主の基幹システムと接続する場合、情報漏洩<sup>えい</sup>の防止のために、基幹システムから倉庫管理システムへの情報伝達は行わない。
- イ. 基幹システムと連携した物流情報システムを使用することにより、ロジスティクス部門が需要予測から需給調整まで行える可能性が出てくる。
- ウ. SCMの推進のためには、企業間を連携するネットワークシステムが構築され、また、この時に共有されるデータは主に管理階層で用いるデータである。
- エ. 物流情報システムを販売情報システムと接続して使用することがあるが、会計システムと接続して使用することはない。

問題35 ソフトウェア・パッケージの導入に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. ソフトウェア・パッケージは、どの会社の製品も各種要望に対応するように開発されているため、パッケージ選定の際は業種による違いを考慮する必要はない。
- イ. パッケージが選定されたら、まず、パッケージ機能と自社業務や要件との違いを明確にするフィット・アンド・ギャップ分析を行う。
- ウ. パッケージの自社業務とのギャップ部分への対応は、なるべくパラメータ設定で対応できる範囲にとどめ、対応できない部分については業務を変更することが望ましい。
- エ. パッケージ導入であっても、運用テストを行う必要がある。

問題36 JANコードに関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. JANコードには13桁のものと、8桁のものがある。
- イ. JANコードは、事業者コード、商品アイテムコード、チェックデジットからなる。
- ウ. 商品アイテムコードは、事業者が定められたルールに基づいて独自で設定する。
- エ. 事業者コードの頭2桁で、その商品の原産国を把握することができる。

問題37 受注処理に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 受注入力情報の正当性チェックは、データ入力時ではなく、出荷情報処理時に行う。
- イ. 通信販売事業者が個人から受注する場合には、与信を考慮した受注処理は行わない。
- ウ. 割当枠限度がある商品を受注した場合には、受注日時で判断せずに、営業部門の指示を受けて出荷する。
- エ. 出荷の引当不能な注文は、受注残として登録しないで、できるだけ早くオーダーをキャンセルすることが必要である。

問題38 発注処理システムに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. コンビニ等で実験が進められているAI（人工知能）を用いた発注は、各種データに基づき人間が決定した発注量について発注処理を自動化するものである。
- イ. 発注側が受注内容を決定する方法はVMIといわれ、パソコンメーカーなどで広く採用されている方法である。
- ウ. 発注の伝送形態の一つにVAN（付加価値通信網）経由があり、VANには業種VANや地域VANなどがある。
- エ. CAO（コンピュータによる自動発注）は計算ミスや入力ミスを防止できるので、売れ残りを削減する最もよい方法である。

問題39 WMS（倉庫管理システム）の導入に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 倉庫作業の効率化と物流品質の向上が期待できる。
- イ. 倉庫作業の効率化は期待できるが、物流品質の向上は期待できない。
- ウ. 倉庫作業の効率化は期待できないが、物流品質の向上は期待できる。
- エ. 倉庫作業の効率化と物流品質の向上は期待できない。

問題40 企業におけるTMS（輸配送管理システム）の目的に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 貨物追跡などの物流サービスを向上する。
- イ. 温暖化・大気汚染防止等の環境対策を促進する。
- ウ. 顧客先でトラックの積卸し待機時間を短縮する。
- エ. トラック運転者の負担を軽減する。